

2

緊急時の活動

2-2 放射線や放射性物質から身を守るために

国、地方公共団体、原子力事業者等は、周辺住民等の精神的負担を考慮しつつ、放射線や放射性物質からの被ばくをできるだけ低減するために、緊急事態応急対策（屋内退避、コンクリート屋内退避、避難等）の対応方針を決定し活動します。

正確な情報の提供

万一、原子力緊急事態が発生した場合には、国、所在道府県はテレビ、ラジオ等による緊急放送を実施します。また市町村は、防災行政無線、広報車、CATV等を通じて地域に向けて知らせます。漁船や船舶には、漁業無線や海上保安部の巡視船で知らせます。



一斉放送
広報車
テレビ
漁業無線など

屋内退避

屋内に退避することは、屋根や壁などで放射線を遮ることになるので、外部被ばくを低減させる効果があります。また、屋内の気密性を高めることで放射性物質の浸入を抑え内部被ばくを防ぐこともできます。屋内退避は、避難に比べて日常生活に近く、テレビ・ラジオからの報道に接することができるため、予測被ばく線量が小さいときに有効であると考えられます。



いつものライフスタイルで...



コンクリート屋内退避

コンクリート建物は、木造家屋よりも放射線の遮へい効果が大きく、一般的に気密性も高いので、内部・外部被ばくの防護効果が高いと考えられています。個人住宅の屋内退避では、被ばくの低減効果が小さい場合があり、コンクリート建屋への退避指示が行われる場合があります。

木造より防護効果があります。



避難

避難は、環境へ放出された放射性物質から遠く離れ、放射線による外部被ばく及び内部被ばくを防ぐための手段です。避難にあたっては、道府県や市町村の指示に従ってください。

